

相模原市視察報告書

シビックプライド向上計画について

視察情報

- 日時：2024年7月2日（火）9：00～10：30
- 場所：[相模原市役所]

記録

- さがみはらみんなのシビックプライド条例の概要
令和3年4月に試行された「さがみはらみんなのシビックプライド条例」に基づき、相模原市と関わりのある方々のシビックプライドを高めるとともに、相模原市の魅力を発信するシティプロモーションを効果的かつ計画的に推進するために計画が策定された。
- さがみはらみんなのシビックプライド条例（計画）
第8条 市長は、相模原市と関わりのあるみんなのシビックプライドを高める取組を効果的かつ計画的に推進するための計画を定めます。
- 計画の位置づけ
市総合計画の部門別計画として位置づけられている。
計画期間は令和5年度～9年度までの5年間。
- 計画策定体制
学識経験者、公募市民（2名）、市内公共的団体の計9人で構成された、シビックプライド向上計画策定委員会による協議が令和4年6月から4回開催されている。

- 目標
 1. 継続居住促進 2. 認知度の向上 3. 転入促進

- 基本施策
 1. 相模原市の魅力の発掘・向上と更なる発信
 2. 相模原市の魅力や市民等の満足度を更に高めるための施策の充実
 3. 魅力的な地域資源・観光の新たな発掘と効果的な活用
 4. 相模原市と関わりのあるみんなへの魅力発信
 5. 市民の多様な主体との連携・協働による取組の推進
 6. 市民等多様な主体との連携・協働
 7. 効果的なシティプロモーションの着実な展開

- アピールポイント

SWOT分析により以下のアピールポイントを導き出した。

 1. 子育てしやすいさがみはら
 2. 都市と自然のベストミックスさがみはら
 3. 宇宙を身近に感じられるさがみはら
 4. スポーツに親しめるまちさがみはら

- 手法

「市内」

 1. ホームページ
 2. 動画配信
 3. 各種 SNS
 4. ファンサイト
 5. イベント
 6. 紙媒体

「市外」

 1. メディアリレーション
 2. 各種広告
 3. 新たな媒体の活用（仮想空間）

- 指標

本計画の推進状況や施策の成果を把握し評価するため、総合計画で設定した指標に基づき成果指標を設定

- 所感

シビックプライドについて学び、その重要性に深く感銘を受けました。シビックプライドとは、私たちが住む地域や都市に対して誇りを感じ、その発展に貢献しようとする姿勢を指します。

この感情は、住民同士のつながりを強化し、地域全体の活力を高める源泉となります。

特に私が印象に残ったのは、シビックプライドが単なる感情ではなく、具体的な行動に結びつくという点です。

例えば、地域の清掃活動やイベントへの参加、地元のビジネスを応援することなど、私たち一人一人の小さな行動が、最終的には大きな社会貢献につながります。

また、シビックプライドは、外部から見たときの都市の魅力にも影響を与えます。自分たちの街に誇りを持つ住民が多い地域は、外部の人々にとっても魅力的に映ります。

観光客や新しい住民を引き寄せる力を持つのです。シビックプライドが強い都市は、常に発展し続け、多様な人々を受け入れる柔軟性も持っています。

この学びを通じて、私はシビックプライドの醸成が、私たちの都市や地域社会にどれほど大きな影響を与えるのかを改めて実感しました。

今後も自分の住む地域に対して誇りを持ち、その発展に貢献できるような行動を心がけるとともに本市の施策へ活かします。

足立区視察報告書

「北千住どろんこ保育園」現地視察について

視察情報

- 日時：2024年7月3日（水）10:00～11:30
- 場所：[北千住どろんこ保育園]

記録

- 北千住どろんこ保育園の概要
北千住どろんこ保育園は、足立区にある認可保育園で、社会福祉法人どろんこ会が運営しています。

この保育園は、子どもたちが自然の中でのびのびと遊び、成長できる環境を提供することを大切にしています。

特徴的なのは、裸足で泥んこ遊びを積極的に取り入れている点で、子どもたちが自然に触れ、体験を通じて生きる力を育むことを目指しています。

また、北千住どろんこ保育園は「インクルーシブ保育」を実施しており、発達支援が必要な子どもたちと、そうでない子どもたちが共に過ごすことで、お互いを受け入れ合いながら成長できる環境を整えています。

これにより、子どもたちは他者との共存を自然に学び、将来的に多様な人々と協力する力を養うことができます。

食育にも力を入れており、家庭ではなかなか体験できないような自然の中の活動や、健康的な食生活の重要性を学ぶ機会も提供されています。

- 子育ての考え方

1. どの子も、すべて実際に経験する。
2. 人を頼り、尋ね、自分で考え行動してゆくように導く。
3. 兄弟姉妹が共に暮らし、生活・遊び・労働を教えあう。
4. 誰もが自由に行き来できる私たちの大きな家。

- 障害児支援の考え方

「今、この課題ができればいい」ではなく、学齢期・大人になった時を見据えた「生きる力」を獲得する。

- 理念

【にんげん力。育てます。】

「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、自分で考え、行動する思考を育み、若者が「0を1に変える力」で課題や困難に向き合うたくましい未来を創ります。

- 育てる6つの力

1. ケガをしない強い体を育てる。
2. 自分でできることを自分でする。
3. 全ての人との関わりから判断・行動を身につける。
4. 活動を選択し、自分で考えて行動する。
5. 生死を知る。食の循環を知る。
6. 感じたこと・考えたことを表現する。

- 所感

今回、足立区の北千住どろんこ保育園を視察し、自然体験を重視した保育の重要性について深く学ぶ機会を得ました。

この保育園は、泥んこ遊びや裸足での活動を積極的に取り入れ、子どもたちが自然の中で自由にのびのびと遊びながら、身体的・精神的に成長できる環境を提供しています。

実際に見学してみると、子どもたちが泥だらけになって遊ぶ様子はとても楽しそうで、私自身もその活気とエネルギーに感動しました。

また、インクルーシブ保育の取り組みにも強く感銘を受けました。
この保育園では、発達支援が必要な子どもたちと、そうでない子どもたちが共に過ごすことで、お互いを理解し支え合う環境が整えられています。

このような体験を通じて、子どもたちは多様性を自然に受け入れる力を養っており、これは将来社会に出たときに非常に重要なスキルです。

さらに、どろんこ保育園では食育にも力を入れており、子どもたちは体験を通じて食や自然との関わりを深めています。

こうした保育方針は、単なる学びの場にとどまらず、子どもたちの健全な成長を促す場として、大きな意義があります。

今回の視察を通して、自然体験や多様性の尊重が、子どもたちの成長にどれほど大切かを改めて理解しました。

この学びを今後の活動に活かし、本市の子育て支援に貢献したいと強く思います。